

市民部会主催の公開講座について

1:提案する公開講座の趣旨

- ・ 昨年度の公開講座（マイクロプラスチック、ネオニコチノイド系農薬）の第2弾とする。
- ・ 流域圏懇談会の今後の展開やつながりを勘案し、「農業」を軸とした公開講座とする。
 - 流域に展開できるテーマであること。
 - 流域住民の生業や生活に直結した流域住民の関心が高いテーマであること。

2:公開講座の内容(松沢案)

1. 公開講座のテーマについて

- ・ 令和3年5月に開示された「みどりの食料システム戦略」（農林水産省）の取組の中から、昨年度の公開講座の第2弾として展開できそうな施策を選定し、公開講座のテーマを設定する。「みどりの食料システム戦略」の取組から展開できそうなものを以下に記した。

表1 「みどりの食料システム戦略」において公開講座に展開できそうな取組と内容

化学農薬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2040年までに、ネオニコチノイド系農薬を含む従来の殺虫剤を使用しなくてもすむような新規農薬等を開発する。 ・ 2050年までに、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減を目指す。
化学肥料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2050年までに、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の30%低減を目指す。
有機農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができるよう、次世代有機農業に関する技術を確立する。 ・ 2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大することを目指す。
森林・林業	<ul style="list-style-type: none"> ・ エリートツリー等の成長に優れた苗木の活用について、2030年までに林業用苗木の3割、2050年までに9割以上を目指すことに加え、2040年までに高層木造の技術の確立を目指すとともに、木材による炭素貯蔵量の最大化を図る。

【上記取組に対する松沢メモ】

- ネオニコチノイド系農薬は記載されているが、マイクロプラスチック関連の被覆肥料プラスチック殻に関する取組の記載がない。
- 有機農業は昨年度の第2回公開講座につながる話題。土壌の問題は炭素固定という点でカーボンニュートラル施策への対応にもつながる。無農薬や肥料の関係もここに合致する。
- 森林・林業に記載されている内容は、山部会ですでに検討・実施している課題にほぼ合致する。根羽村森林組合の活動や学童保育の木造化もこの取組に合致している。



公開講座のテーマ（案）：流域の農業と環境を考える

- 国の農業施策を知る。
- 農薬使用の現状を知る。現状から解決策を考える。
- 有機農業の方向と現状、今後の課題について考える。
- （カーボンニュートラルからみた矢作川流域の林業の取組を知る）

2. 公開講座の内容について

- ・ 「みどりの食料システム戦略」をベースに農政施策の現状と将来に関する話題提供。
- ・ 農薬の現状に関する話題提供と今後の展望についてディスカッション。
- ・ 有機農業の現状に関する話題提供と今後の展望についてディスカッション。
- ・ （国のカーボンニュートラル施策と矢作川流域圏懇談会の活動紹介→*山部会の活動）

3. 登壇者について

- ・ 「みどりの食料システム戦略」の説明：東海農政局の担当者？
- ・ 農薬使用の現状・展望の説明：豊田市、岡崎市の農業協同組合？
- ・ 農薬使用の現状の説明：豊田市、岡崎市の農業従事者？
- ・ 有機農業の現状・展望の説明：豊田市、岡崎市の農業協同組合？ 愛知県農業試験場の担当職員・研究者？
- ・ 有機農業の現状の説明：豊田市、岡崎市の農業従事者？
- ・ コメンテーター：昨年度公開講座講師（千葉氏・荻部氏）？
- ・ 司会進行：市民部会から誰か

4. 開催する場合の課題

■公開講座の内容に関する課題

- 「みどりの食料システム戦略」に偏るとマイクロプラスチックの話題が出てこなくなる。
- 起承結のストーリーの組み方が難しいかも。結（=ゴール）をある程度決めておく必要がある。
- 農薬使用や有機農業に話題を集中させることができるかどうか不安なところ。
- 山部会の活動がカーボンニュートラル施策にほぼ合致する。流域圏懇談会の活動をアピールできるかも。

■登壇者選定の課題

- 国の方向を説明する東海農政局（？）の担当者と関係がある人（=交渉できる人）が市民部会にいるか。
- 農業協同組合に話題提供できる適任者がいるか。また、誰が交渉するか。
- 農業従事者に話題提供できる適任者がいるか。また、誰が交渉するか。
- 司会進行を誰が担当するか。
- コメンテーター予定者（千葉氏・荻部氏）との交渉を誰がやるか。荻部氏には打診済み。

協力するとのこと。千葉先生は近藤さん？

【公開講座の内容、登壇者選定に関する松沢私見】

- ネオニコチノイド系農薬の公開講座は、企画段階で登壇者候補の絞り込みはほぼできていた。マイクロプラスチックも同じと思う。今回はどうかという点が不安なところ。
- 話しが分散する可能性がある点。シナリオをしっかり組むことと、登壇者を入れた事前協議は必須と思う。
- これまでの流域圏懇談会において、農業についての協議の積み上げが薄い点が不安。例えば、海の栄養塩の場合は、海部会で協議を重ねてきた実績があり、課題が明白になっている。ネオニコチノイド系農薬については、2019年の日本トンボ学会大会でシンポジウムをやった実績があるのと、荻部氏及び話題提供者の清水氏・吉田氏の研究内容を松沢が把握していた。マイクロプラスチックについては、漂着ごみ問題を海部会で協議していたのと、講演者・登壇者の活動を近藤さんが把握していた。今回の農業についてはどうかという点。要検討と思う。

■開催時期について

- ・ 日本トンボ学会大会が11/26-27にあり、コメンテーター予定の荻部氏は11月がかなり多忙になる可能性大。
- ・ 登壇者選定と事前交渉にかなり時間を要することが予想される。
- ・ それらを勘案すると、早くて12月開催が妥当なところかと思う。

■その他不安な点など（*松沢私見）

- ・ 「みどりの食料システム戦略」は農林水産省の施策であること。国土交通省が主導する矢作川流域圏懇談会が主催する公開講座に適しているかという点。
- ・ 公開講座案を考えてきて感じるのは、検討事項の多さに比して準備期間が短い点。登壇者選定や講座内容の詰めがうまく進められるかという不安もある。市民部会で農業問題についてもう少し協議した上で、このテーマでの公開講座は次年度に回すほうがよいかとも感じている。